

ほくほくフィナンシャルグループから 皆さまへのご報告

皆さまには、平素よりほくほくフィナンシャルグループをお引き立ていただき、心から御礼申し上げます。本ディスクロージャー誌の発刊にあたりまして、当社グループの平成18年度の業績と今後の戦略についてご説明いたします。

「経営健全化計画」見直し後初年度における着実な成果

当社は、平成16年9月に北陸銀行と北海道銀行が経営統合し誕生いたしました。以来、統合効果を最大限に発揮すべく、効率化や営業面でのシナジー効果を追求してまいりました。

こうした中、昨年11月、経営統合時に策定した経営健全化計画を2年ぶりに見直しました。北陸銀行・北海道銀行とともに早期の段階からコスト削減を進めてきた結果、OHRが50%程度と収益力は高水準にあります。引き続き効率化を進める一方、新たな収益機会の拡大等のため必要な投資を織り込んだ内容としております。具体的には、店舗についてはスクラップ&ビルドを進めつつ3店舗増加させ、人員も増加させる計画としております。

計画見直し後初年度となる平成18年度は、ほくほくFG連結で406億円、銀行単体で397億円と、業績予

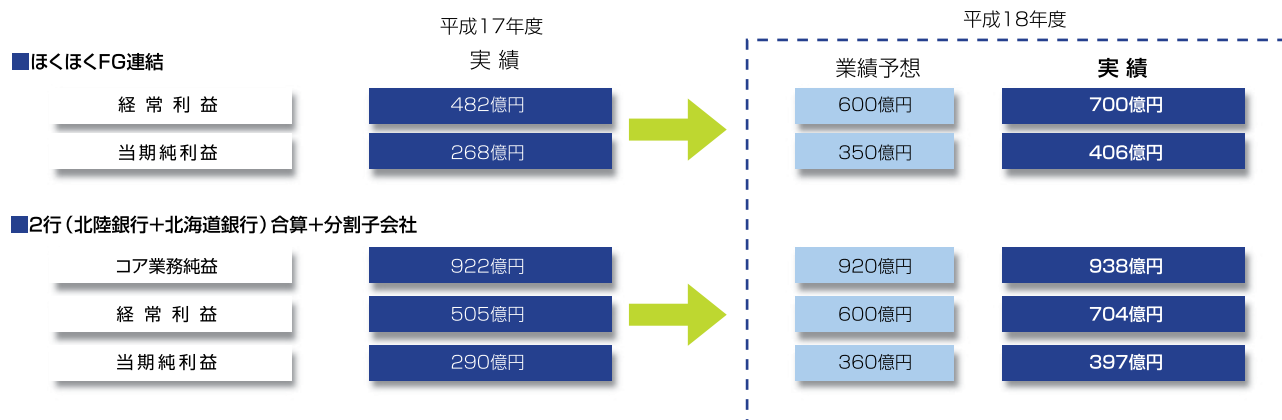
想を上回る当期純利益を計上いたしました。不良債権比率は平成19年3月末の目標であった4%台に達し、資産の質は着実に改善いたしました。また、高水準の当期純利益を計上したことに加え、公募増資による資本増強を行い、自己資本比率は10.44%へ上昇し、財務基盤も強化いたしました。

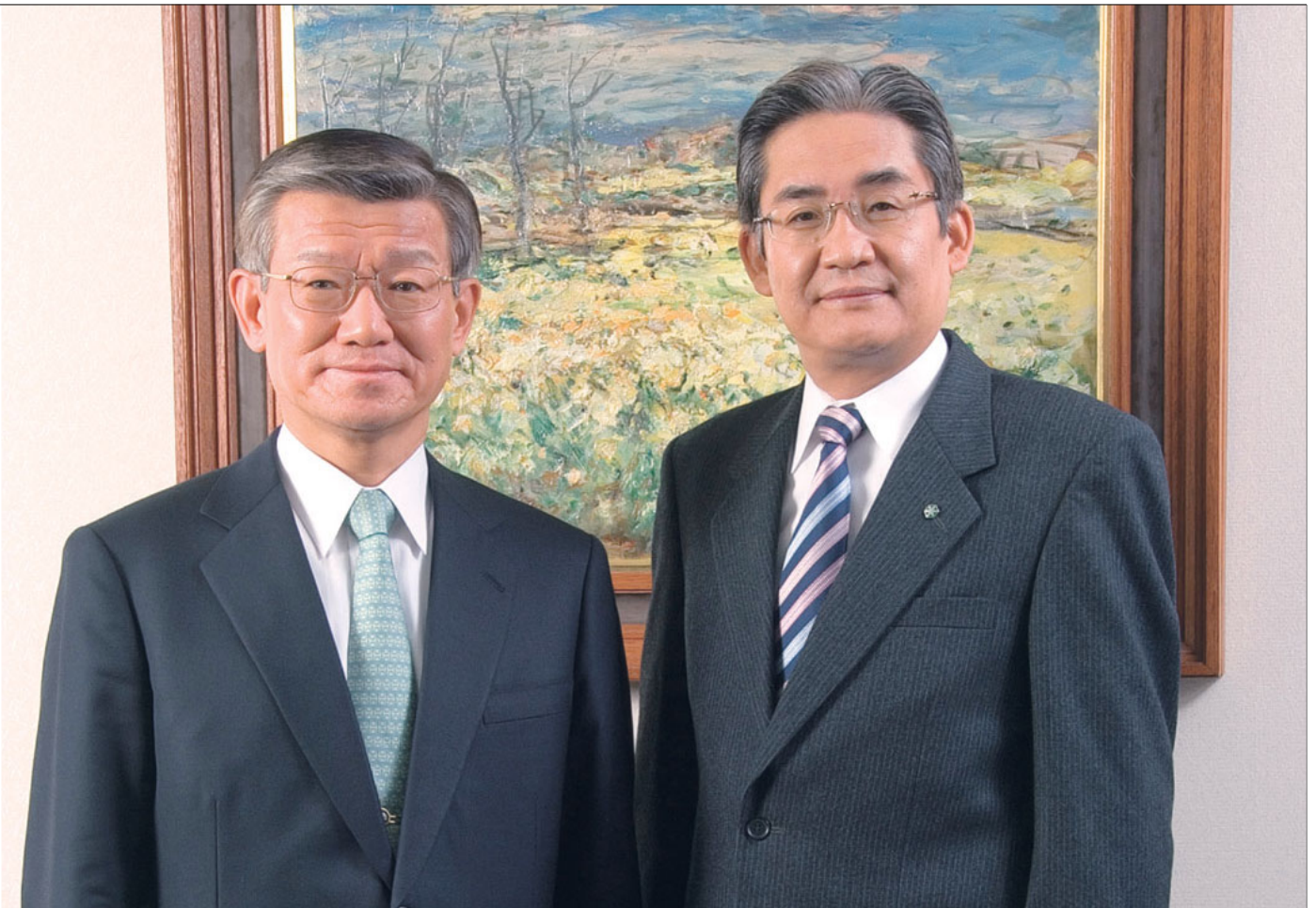
当社の戦略

広域地域金融グループとして他に類を見ない特徴を活かし、営業力の強化、経営の効率化、経営基盤の安定化のための施策に取り組んでまいります。

具体的には、北海道・北陸・三大都市圏という広域ネットワークを活用した「営業力の強化」、主にバックオフィスを中心とした業務の共同化等による「経営の効率化」、地域的・業種的に分散された資産ポートフォリオによる「経営基盤の安定化」に取り組んでまいります。

個人のお客さまには、「8種類の疾病保障付住宅ローン」等のお客さまのニーズに適したローン商品を提供するほか、団塊の世代を中心にますます高まる資産運用ニーズにお応えすべく、退職金運用の特別商品をはじめ商品ラインナップの充実を進めております。また、休日にも営業するローンプラザや、ゆったり相談





取締役社長 高木 繁雄 (北陸銀行 頭取)

取締役副社長 堰八 義博 (北海道銀行 頭取)

できる店舗レイアウトなどにより、お客さまの利便性の向上に努めてまいります。

法人のお客さまには、両行のノウハウを共有する等当社グループ総合力の発揮によるソリューションを提供してまいります。特に当社グループの特長である広域営業を活かし、ビジネスマッチングや海外ビジネス支援を通じて、地域の企業の方々をどこまでもサポートしてまいります。

また、お客さまへのサービスを充実させる一方で、引き続きバックオフィス業務等の効率化に取り組んでまいります。これまで横浜銀行とのシステム共同化を進めてまいりましたが、平成19年3月にNTTデータが構築・運営する地銀共同センターと共同開発に関する基本契約を締結したことにより、今後は3行にとどまらず、地銀共同センターへの参加行を含めた14行による共同開発が可能になりました。

平成18年10月から11月にかけて公募増資による総額415億円の資本増強を行い、財務基盤を一層強化

いたしました。自己資本の充実を通じ、公的資金の早期返済を目指し、戦略的な投資や株主還元策を含めた資本政策の柔軟性を向上させてまいります。

おわりに

ゆうちょ銀行、政府系金融機関の民営化や規制緩和の進展による競争激化の一方、新BIS規制や会社法等の諸制度によって内部統制の強化が求められる等、金融機関を取り巻く環境は大きな変革の時を迎えております。

私どもほくほくフィナンシャルグループでは、これらを企業価値向上の機会ととらえ、積極的に取り組んでまいります。同時に、金融機関としての公共性を十分に認識し、お客さまや地域社会とともに発展することを目指したCSR(企業の社会的責任)への取り組みを通じ、株主の皆さまや社会からのご期待にお応えしてまいりたいと考えております。皆さまには、引き続き一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。